
使い魔がハンター！？

あいうえお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

使い魔がハンター！？

【Nコード】

N7051X

【作者名】

あいうえお

【あらすじ】

異世界“ハルケギニア”のトリステイン魔法学院。そこで行われた使い魔召喚の儀式により、ゴンとキルアが召喚されてしまった！？「もしかしてあの鏡のせい…！？」「だから言っただろ！あんな怪しい鏡に触るなって！」「ちよつとあなたたち！人の話聞いているの！？」もしもルイズがゴンとキルアを召喚してしまったら？というIFストーリーです。

No.0 プロフィール(前書き)

新しく書き始めました！

自分はゴンとキルアのコンビが大好きです！ 誰も聞いてないっ！

ただでさえ更新遅いのにな…() (O=殴っ！

そんなアホな自分ですがこれからもよろしくお願いします！() /

、() . . .

No.0 プロフィール

ゴン＝フリークス

性別：男

年齢：15歳

誕生日：5月5日

血液型：B型

系統：強化系

ハンターハンターの主人公にして、この作品の主人公。

性格は原作と変わっておらず、好奇心旺盛で単純な性格。直情的な面もあるが、冷静な面もあり、たまに核心を突く。興味のあることには善悪の区別をつけないという純粋さをもっているが、それが同時にゴンの危ういところである。また、難しい事を考えると頭がショートしてしまう。

自然の中で育ったことで、動物と心を通い合やす事が出来る。

念能力

ジャジャン拳

その名の通りじゃんけんに見立てたゴンの技

グー：強化系の技。オーラを込めた右ストレートを放つ。ゴンが強化系能力者ということもあり、3種類の中では圧倒的に威力が高い。

チー：変化系の技。手先でオーラを刃状に変化させ、対象を切断する。だが、ゴンが強化系であるため、威力は高くない。

パー：放出系の技。掌からオーラの塊を飛ばす。チーと同じで威力は高くない。

キラアッゾルディック

性別：男

年齢：15歳

誕生日：7月7日

血液型：A型

系統：変化系

ハンターハンターのメインキャラ。この作品のもう一人の主人公。伝説の暗殺者一家、ゾルディック家の三男で、ゾルディック家随一の才能を持つ。

幼い頃の経験や特殊な生育環境からか、何処か達観した考えを持っている。仲間には細かな気遣いを見せるが、敵と見なした相手には非情に接することもある。頭脳明晰、冷静沈着で慎重に物事を進めていくタイプ。だが、時には大胆に行く事も。

念能力

オーラを電気に変える事ができる。

イストツシ
雷掌：両手からスタンガンのように高圧電流を発生させる。敵を感電させ、一時的に動きを封じる。

ナルカミ
落雷：敵の上方に跳び、両手から落雷のように高圧電流を敵の頭上に落とす。

カシムル
神速：自身の肉体に電気の負荷を掛け、潜在能力の限界すら超越する動きを強制する技。自分の意思で肉体を操作する電光石化と、相手の動きに感応して自動的に肉体を働かせる疾風迅雷に別けられる。

№.0 プロフィール(後書き)

次回から本格的に更新していきます！

これからも頑張っていこうと思います！) (

No.1 プロローグ(前書き)

やっと最初のお話です！

超絶的な駄文です！しかも自分の頭の悪さがもろ出てます(ノ、
・
・

おまけに全然進んでいないという…(ノ〇=殴っ！

スイマセンm(ノノ)m

自分なりに精一杯頑張りました。

No.1 プロローグ

とある洞窟の入り口、今ここに、ツンツンに立った緑がかった黒髪の少年と、さらさらした綺麗な銀髪の少年、ゴンとキルアがいた。

二人は、その洞窟にハンターとして来ていた。

トレジャー 財宝ハンター、ブラックリスト 賞金首ハンター、グルメ 美食ハンター…、ハンターと言っても数多く存在し、これらは幾重にも存在する選択肢の一つ、どれに重点を置くかによってその俗称で呼ばれることとなるのだ。

ゴンとキルアには、まだどのハンターをを目指すかという事は決まっていない。今回の目的は財宝ハンター^{トレジャー}としてであった。選んだ理由としては腕試しも兼ねての事である。

「やっと着いた…。ここが、その洞窟だね」

「ハンターサイトの情報だ。間違いねえよ」

ゴンとキルアが言葉を交わす。二人の50メートルほど先に龍の形をした洞窟があった。

「それにしても、凄い生き物ばかりだったよね。この辺り」

「所得難易度Sランクだから…。情報も額が額だったし…。多分、中にもつと凄いぜ？」

二人は台詞に反して楽しそうである。

そして二人が洞窟に足を勧め出した、まさにその瞬間、目の前に黄色に輝く楕円型の鏡のようなものが出現した。

刹那、ゴンとキルアは凝を使用、臨戦態勢に入る。

「ねえ！ この鏡！」

「ああ」

(どういうことだ？ 何も見えない…)

凝、それはオーラを体の一部に集めて増幅させる技術である。そのオーラを目に集めれば、相手のオーラも見ることが出来る。それゆえに、未知の敵と対峙した時の常套手段ともされているのだ。

こういう特異な事態が起こればまずは凝を使う。二人の凝の速度はまさに一瞬、経験が成せる業である。

(一番可能性が高いのは具現化系能力！ だけどそれならオーラは見える筈…！ これは一体…)

(オーラが全く感じられないし、生きてる感じも全くしない。ていうことはこれ、本当にただの鏡？ でも急に目の前に現れたよね…？ 確かめるにはやっぱり…)

「ゴン。とりあえずその怪しい鏡には触るな、っておい！」

「え？」

そうキルアが言った時、ゴンはすでに鏡に触れていた。

思慮深さにかけるがその行為は概ね正しい。凝でも見切れないなら、実際にふれてみるしかない。しかもこの鏡にはオーラが全く感じられないのだから。

だが今回は、慎重に物事を見るキルアの方が正しかったと言える。

ゴンが鏡に触れた瞬間、鏡は凄い勢いでゴンを吸い込んでいった。

「うわあああ！」

「ゴン！」

キルアはゴンの腕を掴み、思いつ切り引っ張る。だが、それを鏡の吸引力は上回っていた。

(ありえねえ！ 何だこの力！)

全てのオーラを足に集中させる。だが、それでも鏡の方が力が上である。

「キルア！ 手を離して！ このままじゃ！」

「バカ言うな！」

キルアがそう言った瞬間、鏡の力は更に強くなる。

そして、二人の姿は鏡と共に消えた。

所変わって、ここはトリステイン魔法学院。今、ここでは“サモン・サーヴァント”と言われる使い魔召喚の儀式が行われていた。

次々に行われていく儀式。周りには幾多の生き物がたむろしていた。蛇やフクロウや猫、中には火を吐く大きな赤いトカゲや、宙に浮く紫色の巨大な目ん玉、青いドラゴンすらもいる。

そして遂に最後の一人の番までやってきた。

「ゼロのルイズかよ…」

「何呼び出すんだ？」

「呼び出せっこないでしょ。また爆発してお終いよ」

まわりからヒソヒソと言葉があふれる。その視線の先には桃色がかったブランドの髪の少女、ルイズがいた。

（お願い…！）

周りの言葉を見殺し、サモン・サーヴァントを行おうとするルイズ。手に握る小さな杖にギュッと力が入る。

「宇宙の果てのどこかにいる私の僕よ」

『は!?!?』

「なーにあの呪文?」

「ま、まあ独自性はあるな」

ルイズは周りからの突っ込みも無視し、儀式を続ける。

「神聖で、美しく、そして強力な使い魔よ。私は心より求め訴えるわ、我が導きに答えなさい!」

そう言つて杖を振るルイズ。

その瞬間、ドカンッ!と爆発が起こった。

「げほげほ、やっぱこうきたか…」

「げほげほ、大丈夫かいモンモランシー」

「ねえ…、あれを見て…」

モンモランシーと呼ばれた金髪の巻き髪の少女が指をさす。白い爆煙が晴れて行き、一同はその先に視線を向ける。そこにいたのはルイズと気絶している二人の人間。一人はツンツンに立った黒い髪の少年、もう一人はさらさらとした銀髪の少年だった。

「に、人間?」

「あの格好どう見ても平民だぜ」

「あ、ああ平民だね、間違いなく」

「それに二人もいるぞ…」

それは前代未聞の出来事であるため、皆驚きを隠せない。人の使い魔なんて聞いた事がなかったのだ。しかも相手は平民である。

「こ、こんなのが、神聖で、美しく…、そして強力な…」

ショックと憤りで強張るルイズの顔。

こうしてゴン＝フリークスとキルア＝ゾルディックが異世界に召喚された。

No.1 プロローグ(後書き)

こんな駄文に付き合っていたいただきありがとうございます！)

これからも頑張っていこうと思います！

あと、ゴンとキルアは、原作よりかなり強い設定です。修業はちゃんとできています。

あと、誤字や矛盾点、おかしいところなどございましたら、遠慮なくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7051x/>

使い魔がハンター！？

2011年10月21日02時34分発行